



「昨日のマッサージが気持ちよかったからもう一度来てみたけど、誰もいないのかしら？」

「あの一、よろしければマッサージはいかがですか」

「ちよ、ちよっと近いんだけど……」

「昨日は女性の方が担当だったけど今日はいないの？」

「ええ、本日の担当は私だけですわね」

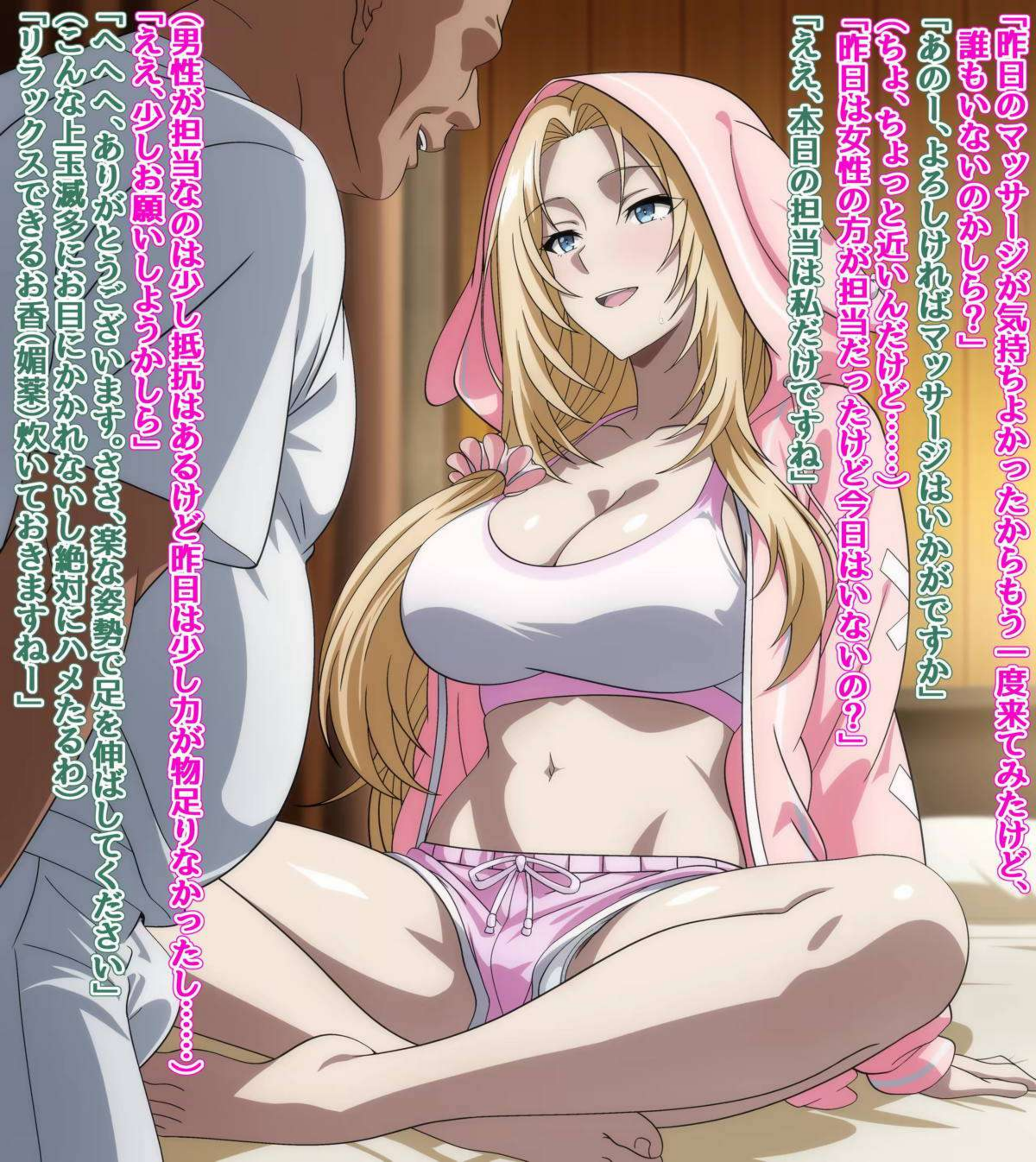
「男性が担当なのは少し抵抗はあるけど昨日は少し力が物足りなかったし……」

「ええ、少しお願いしようかしら」

「へへへ、ありがとうございます。ささ、楽な姿勢で足を伸ばしてください」

「こんな上玉減多にお目にかかれないし絶対にハメたるわ」

「リラックスできるお香(媚薬)炊いておきますね」



「すーし痛みますが我慢してくださいねー」
「っ……！」

（痛むけど確かに気持ちいい……昨日の緩い感じも良かったけど
こういうのも悪くないわね）

「お客さん我慢強いですねー、痛みで声を出す人も多いんですけど」

「これくらいは別に平気よ、もう少し強くしてくれても構わないわ」

「じゃあ反対の足の太ももも刺激しますね。痛かったら我慢しなくていいですよ」

「ん……」

（っ、これは結構効くわね……両足を攻められると変な気分になってくるわ）

（本人は痛みに堪えて気付いてないみたいだけど

隙間から白パンがちらちら見えて最高の眺めだな）

「下半身が終わったので上半身もほぐしていきますねー」

「え……昨日はこんなことまでされなかったわよ」

「今回は上級コースとなっておりましてので

隅々まで施術させていただきます」

「だからって胸を直接だなんて……」



「おっぱいも大きくなるので彼氏さんも喜ぶと思いますよ」

「か、彼氏なんていないわよ……」

「シヤドウも胸の大きい女の子が好きだったりするのかしら」



「ちょ、ちょっと何してるの!」

「次の施術の邪魔になっちゃうので下は脱いでもらいますね」

ドキ

え?!

ドキ

「当たり前のように下着姿にされたけど
この人からしたら普段の仕事通りなんでしょうね」

「大丈夫ですよー、皆様もやられていますからね」

「え、ええ………わかったわ」

「苦しかったら声を我慢しなくていいですからからねー!」
「ほー…ほー…大丈夫よこれくらい!」
「この道具…前にミツゴモンで見たことがあるわ」

はー♡
♡
♡

「気持ちいいでしょう。この前発売された新商品で
ツボを刺激するのに丁度いいんですよ」

「し、刺激ってこれは……」
「前にイータとガンマがこの道具のことを話していたけど
性欲の発散に使う用途だったような気が……」





あゝ♡

ゴクゴク♡

あゝ♡

ゴクゴク♡

ゴクゴク♡

ゴクゴク♡

あゝ♡

あゝ♡
あゝ♡
あゝ♡



びゅるる♡

とろけちゃう♡

とろけちゃう♡

とろけちゃう♡

とろけちゃう♡



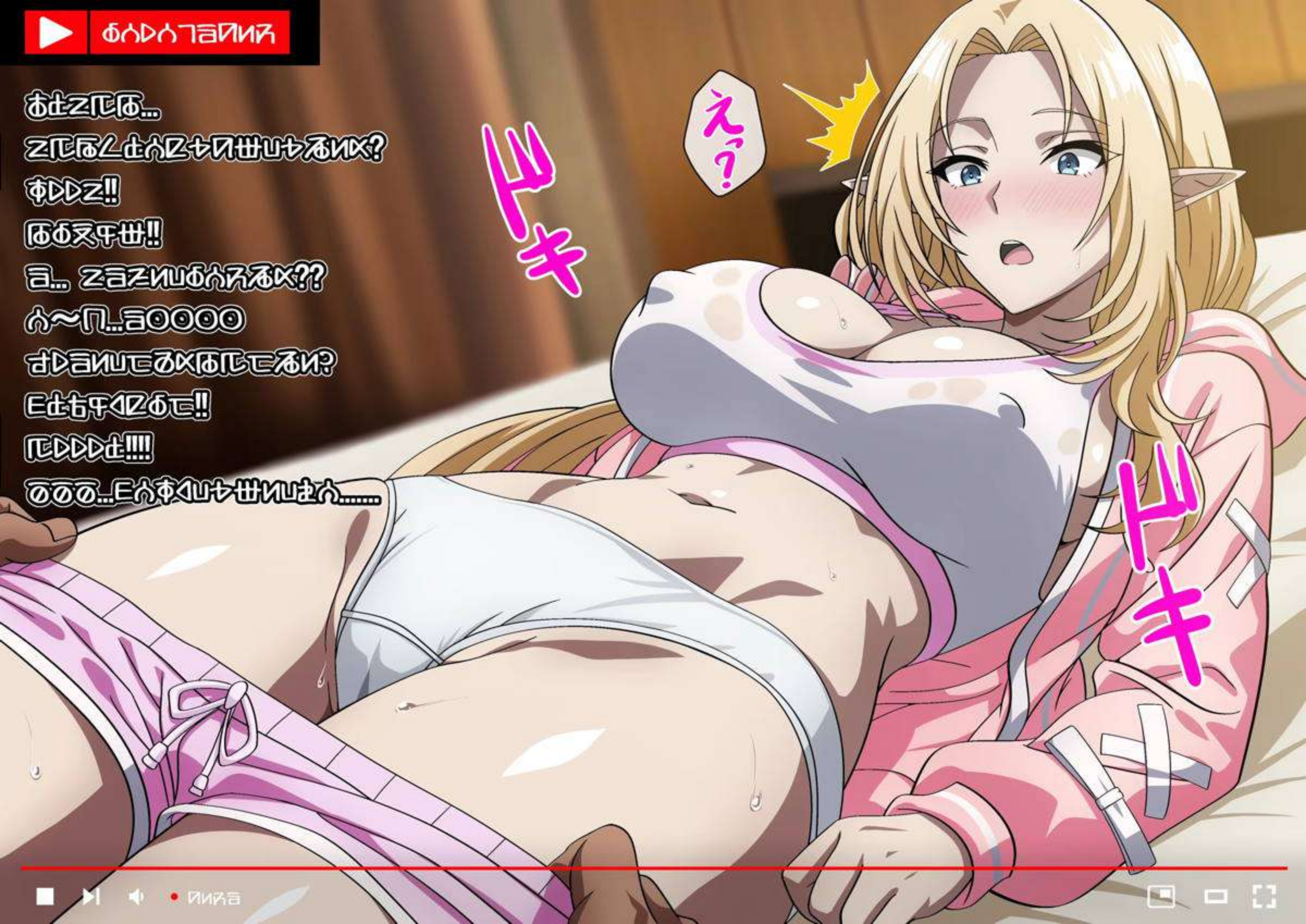
おっぱい...
 乳首が痛くて泣いてるの？
 痛い！！
 痛くない！！
 あ... 大丈夫ですか？
 あ〜ん... 泣いてるの
 大丈夫ですか？
 大丈夫！！
 大丈夫！！
 大丈夫... 大丈夫です.....

痛い

え？



痛い



おとちい...
ちいさなおっぱい...
おっぱい!!
おっぱい!!
あ... おっぱい...
あ...
おっぱい...
おっぱい!!
おっぱい!!!
おっぱい...
おっぱい...

あ...
あ...

あ...
あ...

あ...
あ...

あ...
あ...

あ...
あ...

あ...
あ...

あ...
あ...





▶ 600070000

600070000...
600070000? 600070000?
600070000!!
600070000!!
600070000... 600070000??
600070000... 600070000
600070000... 600070000?

600070000

600070000

600070000

